

## はじめに

大学では、2020年春以来、新型コロナウイルス感染症の影響下で、マスク着用、密を避ける、感染拡大期にはオンライン授業に切り替え、といった対応に追われてきました。しかし、2023年5月に5類感染症に移行するという判断がなされ、ようやく「日常」が戻ってきました。まだ学校からはインフルエンザとコロナのダブル流行といった声も聞こえてきますが、ポストコロナ時代をどう作っていくかが問われるフェーズに入ったと言えるでしょう。

現在、京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM では、内閣府による戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」において、研究開発「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」(研究開発責任者：松下佳代教授)に取り組んでいます。教育方法学研究室の教員・院生たちも総掛かりで、また関係する修了生の力も借りつつ、①「総合的な学習(探究)の時間等のデジタル・ポートフォリオと評価システムの開発」、②「教科等でのパフォーマンス課題を生かしたデジタル・コンテンツ開発」、③「実践者の探究指導力育成研修の開発」に取り組んでいます。本誌に収録の論文「専門高等学校における探究的な学びのカリキュラム」は、その成果報告の第一段とも言うべきものです。

また、研究室で長年、取り組んできた京都市立高倉小学校との共同研究もますます盛んになっています。本誌収録の論文「小学校理科単元におけるパフォーマンス課題の開発過程」は、当校の先生方と院生の共同研究の成果をまとめたものです。なお、2月8日の公開研究会では一般参加者の皆さまとともにループリック作りのワークショップに取り組むことができました。

さらに、個々の教員・院生はそれぞれ固有の問題意識に根差した研究を進めています。その多彩さは、石井英真准教授の論文、ならびに巻末の卒論・修論要旨から読み取っていただけることでしょう。

コロナ禍が過ぎつつあるとはいえ、学校や社会が抱える課題は山積しており、教育方法学の重要性は一層、増しています。一方で、研究を純粹に楽しむ心も忘れずに過ごしたいと思う今日この頃です。

2024年3月

教育方法学研究室・教授

西岡 加名恵